



東北ブロック



発行人

支部長 葛西 龍樹 (福島県立医科大学)

事務局

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

TEL 024-547-1515 FAX 024-547-1516

mail:comfam(at)fmuc.ac.jp

ニュースレター No. 19 (2018.03)

【県支部発足のお知らせ】

日本プライマリ・ケア連合学会 岩手県支部

2018年2月16日、岩手医科大学にて第1回幹事会が開催され、岩手県支部が設立されました。下沖 収 先生(岩手医科大学 救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野 教授)が支部長に就任されました。今後は岩手県支部会員向けの情報発信、研修会の開催、県での学術集会等の開催を企画してまいります。

【地方会のお知らせ】

第8回日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会

大会長 石井 正 (東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授)

日時 2018年9月1日(土)・2日(日)

会場 仙台市医師会館

内容 現在企画検討中

特別講演(次期PC連合学会会長予定)

シンポジウム2題、一般演題、ワークショップ数題を予定しております

【研修会開催報告】

せん妄マネジメント研修会

講師: 井上 真一郎 助教(岡山大学病院 精神科神経科)

日時: 2017年6月17日(土) ①9:00~12:40 ②13:50~16:05

会場: 登米市立市民病院 地域医療連携センター 多目的ホール

対象: ①病院職員(定員50名)、②在宅医療介護従事者(定員50名)

主催: 東北大学『コンダクター型総合診療医』養成プログラム

後援: 登米市医療局、登米市医師会、東北大学 災害科学国際研究所 災害精神医学分野、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 老年・在宅看護学分野



モデル症例グループワーク (①病院向け)



講師による実践的講義 (②在宅向け)

内容：2017年2月に行った「せん妄マネジメント研修会」の反省や要望に応え、より充実した内容を目指し会場を変えて行った。今回も岡山大学病院において、せん妄対策チームを立ち上げ、多職種によるせん妄の予防活動を含む取り組みを進めておられる同院精神科神経科 井上真一郎先生を講師にお迎えし、せん妄患者さんのケアについて動画を交えながら実践的で非常に明快な講義を聴き、モデル症例を用いたグループワークでは、熱心に議論・発表を行った。

今回は、後援かつ会場となる登米市医療局の協力により、登米市内からの参加者が多かったが、当日は①61名、②33名の医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャー、介護士が県内外から参加された。

公開シンポジウム「地域の総合診療を考える～多職種連携と総合診療」

日時：2017年12月17日(日) 9:15～13:00

会場：東北大学星陵キャンパス 星陵オーディトリウム2階 講堂

対象：医療関係者、行政関係者、福祉関係者、学生、一般市民 (定員250名)

主催：東北大学大学院医学系研究科、東北大学病院

後援：日本プライマリ・ケア連合学会、宮城県、仙台市、宮城県医師会、仙台市医師会、石巻市医師会、宮城県薬剤師会、仙台市薬剤師会、宮城県ケアマネジャー協会、宮城県看護協会、宮城県栄養士会、宮城県リハビリテーション専門職協会、宮城県歯科医師会、仙台歯科医師会、東北医科薬科大学

おもなプログラム (敬称略)：

基調講演：「行政の立場から地域の総合診療を考える」

(45分+質疑5分)

演者：眞鍋 馨 (文部科学省高等教育局医学教育課企画官)

パネルディスカッション (質疑を含む12分/人×9名)、

総合討論(45分)

1. 「実践例から見た医療と介護の連携について」
千葉 隆政 (宮城県保健福祉部 次長)
2. 「かかりつけ医、町医そして総合診療専門医」
佐藤 和宏 (宮城県医師会 副会長
医療法人社団北社会 船岡今野病院 院長)
3. 「地域の小規模多機能病院の役割」
齊藤 稔哲 (気仙沼市立本吉病院 院長)
4. 「地域の総合診療における歯科医療の役割」
山崎 猛男 (一般社団法人宮城県歯科医師会 常務理事)
5. 「地域で支える食べる力」 伊藤 清世 (複合型介護施設 さくらビレッジ 管理栄養士)
6. 「リハビリテーション専門職の立場から」 小寺 光彦 (登米市医療局 登米市民病院 理学療法士長)
7. 「地域薬剤師会が取り組んでいる認知症対応について」 北村 哲治 (仙台市薬剤師会 会長)
8. 「訪問看護師の立場から」 阿部朋美 (石巻市医師会附属訪問看護ステーション 管理者)
9. 「当事者主体の医療・介護連携」 小湊 純一 (宮城県ケアマネジャー協会 理事・事務局長)



総合討論 (9名の多職種パネリストと座長)

コメント：基調講演、9人の多職種パネリストによるプレゼンテーション、総合討論にて座長、演者、会場の方々と活発な議論を展開し、地域包括ケアにおける総合診療医を含む多職種とその連携について理解を深めた。当日は医師、看護師、薬剤師、介護職、行政、学生、一般市民など139名が参加された。

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業 テーマB：リサーチマインドを持った総合診療医の養成 第5回 公開フォーラム

「未来につながる総合診療医の育成に向けて～地域と教育とリサーチの視点から～」

日時：2017年12月16日(土) 10:00～17:00

会場：東北大学星陵キャンパス 星陵オーディトリウム2階 講堂

対象：文部科学省当該事業・選定 15 大学関係者、医療関係者、学生、一般市民

主催：東北大学、 **後援：**日本プライマリ・ケア連合学会

おもなプログラム (敬称略) :

基調講演 1 : 「未来医療研究人材養成拠点形成事業」 (35 分 (質疑含む))

演者：丸山 浩 (文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室長)

基調講演 2 : 「東北メディカル・メガバンク計画の目標と進捗状況」 (45 分 (質疑含む))

演者：呉 繁夫

(東北大学東北メディカル・メガバンク機構副機構長)

基調講演 3 : 「総合診療医育成のあり方」 (45 分 (質疑含む))

演者：鈴木康之 (日本医学教育学会理事長)

選定大学の活動報告 (15 大学) (各大学発表 7 分 + 質疑 3 分)

前半 7 大学：東京慈恵会医科・名古屋市立・札幌医科・長崎・九州・岡山・島根

後半 8 大学：大阪・三重・富山・新潟・東京・千葉・筑波・東北

総合討論 「未来につながる総合診療医の育成に向けて～地域と教育とリサーチの視点から～」 (50 分)

鈴木康之 (日本医学教育学会理事長)

前野哲博

(筑波大学附属病院総合臨床教育センター一部長

総合診療グループ長)

生坂政臣

(千葉大学医学部附属病院副病院長

総合診療部教授)

樂木宏実

(大阪大学医学部附属病院副病院長

老年・総合内科学教授)

(座長)

竹村洋典

(三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座

家庭医療学分野教授)

石井正 (東北大学病院総合地域医療教育支援部教授)



総合討論 (座長：竹村洋典教授、石井正教授)

コメント：3 題の基調講演、本事業選定 15 大学からの活動報告をもとに、登壇者・座長・会場の参加者を交えた関連な総合討論を行った。当日は、事業関係者のほか、医師、薬剤師、行政、学生、一般市民など計 92 名が参加され、アンケート結果によると大変好評であった。

青森民医連 救急総合診療センター 公開セミナー

日時：2017 年 11 月 4 日 (土)

会場：健生病院

主催者：青森民医連救急総合診療センター

内容：

13:30～ プレ企画 新築移転した健生病院の内覧会

14:10～15:40 企画 1 指導医のための WS (指導医のみ対象)

指導医としてステップアップするために

～指導に 困難を感じたときの考え方～

大西弘高 (東京大学医学教育国際協力研究センター 講師)

15:50～17:50 企画 2 ポートフォリオ検討会

青森県内の総合医が集まり、学び合う機会となった。



CFMD レジデンスー東北・みちのく総合診療医学センター

2017年 第2回東北プライマリ・ケアリサーチミーティング

1. 開催要項

- と き 2017年11月23日(木) 9時00分～12時10分
- ところ 公益財団法人 宮城厚生協会 坂総合病院 2F
- 参加対象者 指導医・専攻医・初期研修医・後期研修医ほか後期研修に関わる事務職
- 参加者 29名(指導医9名 専攻医11人 事務職8人 アドバイザー1名)
- テーマ 研究の「はじめに(introduction)」のはじめかた(初学者向け)
- 目的 ①総合診療専門医後期研修の専攻医が臨床研究をすすめる結節点とする
②専攻医がリサーチクエストまたはプロトコルのたたき台を持ち寄り議論する
③臨床研究の議論を通じて指導医も臨床研究に関する指導力を獲得する
- アドバイザー 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター
臨床疫学研究部部長 教授
同大学院研究科(博士課程)・地域医療プライマリケア医学 教授 松島 雅人先生
CFMD 東京・同大学院博士課程 吉田 秀平先生

2. ミーティング内容

(1) 臨床研究相談

- ・専攻医からリサーチクエスト(またはそのネタ)、またはプロトコル原案を提示
*4名の専攻医(CFMD2名 みちのく2名)によるプレゼンテーション
- ・プレゼンテーション内容に関してグループでのスモールディスカッション
- ・全体討論
- ・松島雅人先生によるアドバイス
*1人あたり20～30分

(2) ワークショップ

- ・「研究プロトコルの introduction の吟味」
- ・ミニレクチャー「introduction を書く」



3. 全体を通して

今回で通算4回目の開催となったリサーチミーティングでしたが、会を重ねるごとに参加者数や専攻医からの臨床研究相談ケースが増えております。今後も継続した取り組みにしていきたいです。

